

新潟市

第31号

3

月 2017

北区農業委員会だより

Kita Ward Agricultural Commission Public Information



春を先取り

育苗ハウスを利用して、平成13年から切花用のチューリップ栽培を始めました。

始めたところは栽培が難しく、自分が思っているようにはなかなかできず、大変苦労しました。

10月下旬頃から3月下旬頃まで、3回転で多品種の栽培をしています。

より良い栽培をするために、ハウス内の温度・湿度に注意し、連作障害を防ぐため土壌消毒などを行い、安定した栽培ができるようにしています。

消費者の方に良いチューリップを届けられるように日々努力しています。

首藤 正人(平林)



農業委員・農地利用最適化推進委員 合同視察研修報告



農業委員
後藤 周衛
(大迎)

平成28年度北区農業委員会視察研修を農業委員16名、農地利用最適化推進委員15名の参加で昨年11月10日・11日の2日間、長野県で実施しました。

長野オリンピックの感動の舞台となったジャンプ台を眺め、初日の視察先の有限会社ティーエムしろま農場(北安曇野郡白馬村)の農家レストラン「農カフェ白馬」で昼食。ブルーベリー園の横にある店内には直売所が設けられていました。しろま農場の耕作面積は120haで、白馬村全耕作面積約580haの約21%を占め、「白馬そだち」というブランド名でJGAP(食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる)認証の農場で育てた米やそば、ブルーベリーなどの農産加工品を企画・販売し、またブルーベリーの摘み取り体験もできる6次産業化の取り組みを行っています。

従業員は20人で、平均年齢30歳、ほとんど白馬村外の人たちですが、チームワ

ークとコミュニケーションによる想像力豊かな農場を目指し、白馬の美しい景観を守り、「おいしさと安心安全」を届けることを目標に掲げ、取り組んでいます。

最後に、「緻密な経営戦略、計画の検討を行い、自分の経営について、自己分析と将来の展望を行う。また幅広い情報、早い対応が求められる」、そんな貴重なお話を伺いました。

二日目は、農事組合法人安曇野北穂高農業生産組合(安曇野市)を訪れました。



昭和38年に農協青年部有志22名で機械利用組織「北穂高機械利用組合」として発足。現在は、北アルプスの東麓の肥沃地でアルプスから流れ出る清らかな水で米づくりを行っている農事組合法人です。6代目組合長として女性組合長が活躍されています。

組合の概況ですが、出資組合員169名、正職員11名(平均年齢39才)、季節臨時雇用者年間延べ700人日(水まわりなどはシルバー人材センターから派遣)。

北穂高の水田約7割(150ha)をあずかる集落営農組織で、全ほ場に土壌改良剤を投入するなど土作りを長年実施

し、秋の刈取り後にレンゲの種をまき、翌年の春にその花も一緒に耕して肥料とし、そこに田植えをするという昔ながらの農法にこだわった米づくりで、ほとんどを独自で販売を行っています。

また、北穂高の地域農業と環境を守り続け、耕作放棄地を出さない取り組みが行われており、今後は200haを目標に掲げ、水田営農の継続に立ち向かっているとのことでした。



農地利用最適化推進委員レポート



農地利用最適化推進委員
山崎 剛
(高森)

農地利用最適化推進委員になって

昨年四月に農地利用最適化推進委員の任命を受けて、早くも一年になります。

制度改正により新設された職務であり、私自身このような役職は初めてであるため、何をすべきか分からないまま一年が過ぎたように思いますが、推進委員として求められる職務を遂行できるように努力したいと思っております。

私は、就農して十二年になります。それ以前は県外でサラリーマンとして十五年勤めてきました。農業とは全くかけ離れた職種であり、農業についての専門知識もなかったことから、就農当初は右も左も分からず、本当に

ゼロからのスタートでした。親に付いて田んぼに行き、指示されたことを行い、少しずつ作業の流れが分かってくると頃、経営移譲により経営する立場となり、それからは、作業計画や作付計画を考え、実行するようになりました。しかし、思うようにならない歯がゆさや難しさを実感しました。

勤めていた頃、安全管理や作業効率、コストダウン等について常に意識するように心掛けていました。就農して一連の作業の流れが分かってからは、各作業工程で「今まで通りで良いのか、もつと違う視点、アプローチで効率化や作業性が向上しないか」を考えて実行してきました。実際、思うような成果が出ることは少なく、未だに試行錯誤を繰り返しています。

最近、高齢化により離農する人が多くなつてきています。それに伴い、農地の受託面積が増えてきています。

作業分散など工夫をしても、家族経営では徐々に限界が出てきています。

今後、農地集積集約化による農作

業の負担軽減や、外部からの人材確保なども考えていかなければいけないと思います。私のほかにも、経営規模の急激な増加により同じような悩みを感じている方もいるのではないかと思います。これらの悩みを解決するためのサポートや、その他さまざまな問題を一緒に考え、手助けできればと思います。

農地利用最適化推進委員の活動を通じ、また農家の皆さんの意見を聞きながら、私自身も成長できればと思いますので、よろしくお願いいたします。



農業委員・農地利用最適化推進委員による後期農地パトロールの実施



11月14日に後期農地パトロールの実施と、遊休農地の利用状況について、主に北地区の砂丘地にある浜サンベと呼ばれる水田や山林原野化した遊休農地について現況確認と違反転用農地の確認を行いました。

今後も農地パトロール期間だけではなく、農業委員・農地利用最適化推進委員が連携をとり、パトロールを実施していきますので、遊休農地の解消、発生防止にご協力をいただき、周囲にご迷惑や影響のないように農地の適正な管理にご理解とご協力をお願いします。

専業農家の紹介



小林 一さん(43歳)
由 希さん(38歳)
(神谷内)

☺冬のスノーボードを楽しむために、繁忙期を毎年乗り切っています。
☺休日に子どもとシヨッピングに行くのが楽しみです。

南浜地区の専業農家になって

家業の農業を専業で従事して18年ほどになりました。初めは、農業を継ぐ気持ちはありませんでしたが、姉弟3人で、2人が姉で私が長男であるため自然と後を継ぎました。

若い時は、父の手伝い程度でしたが、今は、稲作と露地野菜・ハウス園芸を行っているっており、二年中農業に従事している状況になりました。

稲作 2 ha、ハウス 6棟15 a と露地 60 a でハウスメロン、大玉・小玉スイカ、ブロッコリー(春取、秋取)など多種にわたる栽培を行っています。

主に直売所に出荷しています。

葉たばこを栽培していましたが、今は廃作し後作で、ジャガイモ・サツマイモ・タマネギ等の作付を行っています。サツマイモは北区が特産化を進めている「しるきも」を栽培しています。

大変だ、辛いなと思う時は

野菜の栽培は、稲作と違い機械化していない作業が多く労力が掛ってしまっています。

家族 4人で一生懸命従事しています。妻は非農家から嫁に came したので、二から農業で慣れるまで大変だったと思います。

農業をやっていて大変さを感じるところは、稲作との兼ね合いといろいろな野菜を栽培するときの作付時期等の段取りが大変です。

段取りを間違えると二度にいろいろな野菜の収穫など作業が重なってしまうことと、連作障害を防ぐために土壌消毒を行ったり、作付野菜の品目を変えたりと考えるところがあります。

冬場は、他の時期に比べれば比較的時間が取れるので、家族を連れて一緒に



「スノーボード」に行くのが唯一の楽しみです。

農作業が多くなかなか休みがとれず、子どもたちを何処かに連れて行ってやれないところが残念ですね。

将来のこと

農業をやっていてよかったなと思う時は、自分が頑張ったとおりに作物ができたときですね。逆にできなかったときはシヨックが大きいです。

今は、現状維持が精一杯ですが、施設園芸の方をできればもっと増やしていきたいと思っています。

子どもから農業を継いでもらいたい気持ちは今のところないです。

農家は大変ですし、子どもには自由に職業を選択してほしいと思っています。

常に消費者から喜んでいただける安全で安心な「美味しい」野菜栽培をすることを目標に日々努力していきたいと思っています。

取材を終えて

南浜地区で一番若く「粋イキ」と感じる専業農家の方でした。

地域農業の「リーダー」となってこれからの農業の発展に「尽力ください」。

実勢賃借料(北区)の情報

ここでお知らせする賃借料は、平成28年中に貸し借りのあった実勢の集計値(10aあたり)で、賃借料決定の参考として提供するものです。

契約の際には貸し手と借り手の両者でよく協議したうえで賃借料を決定してください。

耕地別	平均額 (加重平均)	最高額	データ筆数
		最低額	
田	14,500円 [土地改良費の経常経費を含むと 23,500円]	24,000円 1,000円	2,676筆
畑	11,700円 [新潟市6農業委員会の平均数値]	18,000円 4,000円	473筆

※土地改良費の経常経費(事務所費・維持管理費・揚水機費の合計金額)は、9,000円/10a(加重平均)。
(豊栄土地改良区…8,900円、木崎濁川土地改良区…9,400円、葛塚土地改良区…9,000円)

平成29年農作業別機械料金及び作業賃金の参考額

◎ほ場条件や作業内容等によって両者協議のうえ、決定してください。

1 【農作業別機械料金】

耕地別	作業種目	機械別	単位	標準料金	備考
田	育苗	稚苗育苗	1箱	750円	種もみ含む・運搬含まず
	機械あぜぬり	あぜぬり機	1m	40円	片ぬり
	元肥散布	—	10a	1,000円	20kg×2袋 運搬含まず
	耕起	トラクター	10a	5,400円	
	代かき			6,200円	
	田植	田植機	10a	6,000円	施設からは場までの運搬含まず
	普通側条			7,000円	
	溝切り	—	1m	10円	
	刈取	コンバイン	10a	17,000円	もみ運搬・搬入含む
	普通刈片刈			22,000円	
乾燥・調整	—	60kg	1,800円		
全面受委託	—	10a	63,000円	育苗、耕起、代かき、田植(普通)、普通刈、乾燥・調整	
畑	耕起	トラクター	10a	5,400円	

2 【作業賃金】

耕地別	作業種別	男女基本給
田	一般作業	6,500円/日額
畑	一般作業	6,100円/日額
	せん定整枝作業	9,000円/日額

※基本給は1日8時間、賄いなし。いずれも消費税は含まれていません。



敬和学園高校による「菜の花」の種まき

10月の秋晴れの中で、太夫浜にある敬和学園高校協の約40名の農地で生徒約40人と農業委員と協同で「菜の花」の種まきを行いました。

遊休農地等環境保全事業(菜の花プラン)の関連として種まき作業を実施するようになって4年。

授業の一環として年二回労務作業実習として体験学習を行いました。

まいた種は、4月下旬から5月上旬まで咲いています。



オトコの料理教室



北区の食材を使った「オトコの料理教室」が昨年に続き葛塚中学校で、11月19日に開催されました。

これは、料理作りを通して家事に対する理解を深めてもらおうと、料理をする機会が少ない男性などを対象に企画されたものです。

講師の野崎伸さん(北区農業委員)から、北区産のそば粉を使ったそばがき汁と親子ちらし、阿部雅弘さん(わらび屋店主)からは、北区産のサツマイ

総会開催日

3月30日(木)、4月28日(金)、5月31日(水)、6月30日(金)
*傍聴者の定員は5名

農地の貸借・売買等の締め切り日

- 農地法第3条・4条・5条関係
3月9日(木)、4月10日(月)、5月11日(木)、6月12日(月)、7月10日(月)
*毎月受付、各月10日頃が締め切り日です。
- 農業経営基盤強化促進法関係
3月17日(金)、4月25日(火)、5月25日(木)、6月23日(金)、7月25日(火)
*各月25日頃が締め切り日です。
利用権設定ほか売買・交換の受付は8月から3月まで。

モ(しるきーも)を使ったプリンの作り方を教わりました。

参加者の中には、「身近な食材を使った料理でおいしくできた」、「家族に作ってあげたい」と自信を持った方もいました。

また、農業委員会の首藤正男会長から北区の特産化を進めている「しるきーも」についてお話があり、料理と知識をいただいた一日となりました。

全国農業新聞を購読しませんか!

農業に関する様々な情報や農業経営と暮らしに役立つ内容が分かりやすく掲載されています。

地方には、皆さんの地域の身近な情報も掲載しています。

- 発行日 毎週金曜日、月4回発行
- 購読料 700円/月額(送料・税込額)
- 発行所 全国農業会議所
- 申込先 北区農業委員会事務局へ ☎387-1585

◆ 編集後記 ◆

昭和26年農業委員会制度の発足当時の、少ない農地(600万ha)を沢山の(140万人)でどう使うかから、現在少ない人(209万人)で沢山の農地(450万ha)をどう使うかという時代になりました。

昔では考えられない農業農地に関する諸問題が発生してきています。

農業を守ることは、農地を守ることだと思えます。

これからも優良農地の保全のためご協力をよろしくお願い致します。

(編集委員 近藤 久子)

